

学校名	丹波市立 中央小学校
-----	------------

○目標・方針

中期的な学校運営の目標・方針	本年度の重点目標
教育目標『人とのつながりを活かし、自ら可能性を広げる児童の育成』 ～あたたかく かしく たくましく～ ・豊かな心を持ち、自分も他人も大切にし、仲良くできる子の育成 ・自らの考えを持ち、互いの考えを聴き合い、学び合いができる子の育成 ・心身ともにたくましく、粘り強くがんばれる子の育成	職員も児童も地域・保護者も学びが楽しいと実感する学校づくり ○仕事を楽しむ職員室 ・「協働」「創造」「喜び」を大切にした職員組織・職員の自分らしさの発揮・効果的な時間の使い方の考察 ○学習を楽しむ教室 ・「学校が楽しい」「授業がおもしろい」と言える児童の増加・自分の良さが認められる教室の実現 ○子育て・教育を楽しむ家庭と地域 ・学校に興味を持ち、参画する地域住民の増加⇒情報発信とＣＳの活用・地域行事との積極的な連携

○自己評価

領域	評価の観点	評価項目	達成状況	学校の取り組み状況と改善の方策
学校運営	開かれた学校づくり	・学校生活や学習状況等について、積極的に情報発信し、教育活動の可視化を図る。	A	学校、学年通信、ホームページの更新、「校長室より」、積極的な情報発信ができた。しかし、学習の成果物の掲示は児童への丁寧な評価も行いながら家庭へ発信していきたい。また、昨年度より「安心安全メール」の配信（未加入家庭2）を行っている。今後は、メールやHPをさらに活用しながら、情報発信を行う。「学校へ行こう DAY」については、平均7～8名程度の来校があるにとどまっているが、学年発表やC1 グランプリ等の機会には来校者が多い。来年度は、これと学校行事をリンクさせながら教育活動の可視化に一層努めたい。
	生徒指導	・家庭、地域、学校どこでも自分から進んで挨拶できる子どもを育てる。	B	挨拶は、人とつながり、自分の可能性を広げるための大事なスキルである。学校では、校門や教室で児童を迎え、朝の挨拶で児童のやる気スイッチを入れると共に、個々の状態を把握して連絡を取り合って児童の支援に活かしたり、帰りの挨拶では、元気に笑顔で一日を終え家庭に帰したりすることができるよう、全職員で声をかけ挨拶をしている。さらに挨拶が地域にも広がり、恥ずかしがらずに顔を上げ相手と目を合わせて「おはようございます」「帰りました」と言えるようにするために、根気強く声をかけていきたい。保護者の方については、PTAの挨拶運動や地域の見守り活動の中で、ご理解、ご協力をいただいているが、今後も継続して活動していただきながら進んで挨拶できる児童の育成を目指す。
教育課程	学習指導	・「聴き合い、対話し、学び合う学び」を通して、「分かった」「できた」と一人ひとりが実感し、学び続けようとする意欲を育てる。 ・協働的な学びを通して、一人ひとりのよさや個性を認め合い、共に学び合う集団づくりに努める。	A	2学期も1学期同様、分かることが増えてきたという児童が多かった。今後も教職員が授業の中で、児童一人ひとりの理解を図り、つまずきやすい所やわからない所を分かりやすく指導していくことを続けていきたい。また、児童のふりかえりを活かし、理解を深めることにつなげたい。 教職員は「学び合いの授業づくり」を意識して取り組んでいることで、1学期に比べて2学期の方が、友だちの意見を聞いたり、自分の思いを伝えたりするなど、「学び合い」の授業が楽しいと感じている児童が多かったと考えられる。主体的に自分の考えを伝えたりする力や、友だちの意見を聞くことができる児童が増えてきたと感じている。今後も、児童が主体的に自分の考えを持つこと、友だちや先生の話聞く力、考えを説明する力やまとめる力を高める授業づくりの研修を深めていきたい。また、児童が意欲的に学習参加できる授業づくりをしていきたい。
課題教育	人権教育	・学校・家庭生活における指導を通して、互いに人権を尊重し合い、自尊感情を持つことができるように努める。	B	教職員は常に子どもたちへの言葉かけや褒め言葉を通して、肯定的な評価を伝えることを意識した。子どもたちは、友だちや自分の良いところを見つけあう活動、あたたかい言葉をかけあう活動に取り組んだ。そして、保護者も、子どもの良いところを見つけを行い、直接子どもに伝えていく活動に取り組んだ。人権意識を高める活動に継続して取り組むことにより、「自分にはよいところがある」と考える児童が増えた。今後も、子どもたちを多面的に見ること、そして、良いところや少しでも成長が見られるところを見つけ、自尊感情を持たせる指導を心がけることに、継続して取り組んでいきたい。
※領域（3領域） 学校運営、教育課程、課題教育 ※評価の観点例（網羅するのではなく、各学校で観点を絞る）				
領域	観点例			
学校運営	学校経営、組織運営、生徒指導、進路指導、教職員の育成、危機管理、安全管理、保護者・地域住民との連携、施設設備 等			
教育課程	学習指導、道徳教育、総合的な学習の時間、指導方法の工夫改善 等			
課題教育	特別支援教育、人権教育、福祉教育、情報教育、食育、防災教育、環境教育 等			
※達成状況 A：優れている B：おおむね良好 C：やや改善 D：要改善				

○学校関係者評価

自己評価の各観点に対する評価
・紙面による情報伝達からメールや HP による情報伝達に変わる時期であることは理解できる。HP を見る習慣がないのでアクセスしやすいようメールに仕掛けを作ったり、QR コードを付けたり工夫してほしい。
・地域の方にも挨拶ができている児童が多い。 ・挨拶はコミュニケーションの基本であるが、大人が先に挨拶する姿勢を持つことで子どもの意識が変わってくるのではないかと。 ・全く知らない人にまで挨拶することは、求めすぎない方がよい。 ・学校の評価は厳しいのではないかと。できていない子より、できている子に注目したらよいのではないかと。
・「わかる」「できる」という意識よりも「楽しい」と感じる事が重要である。楽しんでいるかどうかを図る指標が必要である。 ・保護者からは、他校の取組を自校でもしてほしいという声も寄せられていたが、自校なりの取組を大切にすればよい。 ・自分自身が間違いに気付いたり、問題解決したりする機会をより多くとることで理解を深めるような学習を進めてもらいたい。
・自分の良さをを感じる子が増えていることは評価できる。自己否定している子もいるようだが、謙遜している部分もあるのではないかと。 ・「人には必ずいいところがある」と強調されると、プレッシャーになるのではないかと。自己の良さを感じていなくても周りから大切にされていることを実感させることが大切である。
自己評価の実施方法についての評価
・指標に対する評価だけでなく、記述欄を設けて、保護者の思いを聞き取るとは良いことである。
学校関係者評価のまとめ
・安心安全メールやHPの更新等、積極的な情報発信によって開かれた学校づくりを推進している。 ・子どもたちの互いに認め合う意識をベースにし、学び合う活動を活かして学習指導を進めてほしい。

学校関係者評価を受けての次年度の改善の方向性について		
・ 複数で複数学年を担任するなど、新しい取組を講じながら、自ら考え、判断し、行動できる力を育成する。		
・ 計画、トライ、振り返り、練習という学習サイクルを授業と家庭学習で定着させ、学力向上を図っていく。		
令和2年3月6日	学校名	丹波市立中央小学校
	校長名	西 田 隆 之



